

ごあいさつ



日本赤十字社医学会
理事長 **富田 博樹**
(日本赤十字社事業局長)

本医学会は昭和39年に発足してから今年で51回目の総会を迎えることができました。これもひとえに会員の皆様方のご支援ご協力のおかげであり、心から御礼申し上げます。

今年は、4月25日にネパールでマグニチュード7.8の大地震が発生し甚大な被害が発生しました。この災害に対しても日本赤十字社は、翌日には医師、看護師等からなる先遣隊を、4月30日には総勢14名で構成された保健医療チームを派遣し、1日200人以上の患者に対応してきました。私は6月29日からの7日間現地視察をしてきましたが、現地で活動している要員のバイタリティに脱帽するとともに、日本赤十字社の国際活動の能力の高さと歴史の重みを感じた次第であります。

本学会は、会則の目的として日本赤十字社に勤務するすべての職員の医療及び赤十字事業に関する知識と技術の向上を図るとあるように、医師、看護師、事務職員、血液センター職員等幅広い職種の方々が様々な分野の演題を発表する予定で、その数は752に上ります。このことは、本医学会に対する皆様の高い参加意識が覗けるとともに、今後も本医学会がますます発展していくことを示しているものと思われまます。

本年度の総会では「つなげよう赤十字の温故知新～オホーツクからの新たな一歩～」というメインテーマが掲げられています。少子高齢化の急速な進行と日本経済の成長の鈍化により、診療報酬の抑制や地域医療構想に伴う医療機能の見直し等病院経営に大きな影響を及ぼす厳しい時代を迎えています。このような時こそ日本最大の病院グループとして一層発展していくために、このような場で切磋琢磨するとともに、赤十字病院間の連携を強化することによりグループの総合力を高めることができることを願います。

今回の総会を開催していただく日本赤十字社北見赤十字病院は、昭和10年11月に日本赤十字社北海道支部野付牛療院として、内科、外科、小児科等6診療科、62床で開設以来、北海道の東部・オホーツク医療圏の中核病院として赤十字の理念に基づき患者様を尊重した医療を提供し続けてきました。また、救急医療と高度医療の充実、地域医療支援や地域住民の健康管理に注力しつつ、オホーツク圏域の医療機関等と連携し地域完結型医療を構築しているところです。このような病院の使命をより高い次元で実現させるために、平成26年12月に新病院が開院しました。これからのますますの活躍が期待されます。

最後になりますが、今回の総会の開催にあたり、総会会長である北見赤十字病院の吉田茂夫院長をはじめ、関係者の皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。会員の皆様には、今後とも本学会、そして赤十字グループのさらなる発展のため、一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。